

竜たつの子新聞

特別号

市政報告
発行 **あらし竜二**
倉敷市川入 641-5
TEL & FAX : 086-434-8185
<http://www.ryu2.biz/>
e-mail: info@ryu2.biz

facebook

謹賀新年



明けまして

おめでとう

ございます



二〇二二年の年頭に
当たり、謹んで新年の
ご挨拶を申し上げます

昨年は、世界中に流行した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、かつてない厳しい年となりました。しかし、その日々の中でも私自身、気づいた事柄や学びの多い年となったと感じています。

二〇二二年を振り返り、令和4年をいかに迎えるか。考えたいと思います。

「**コロナ禍を生きる**」

昨年1月、米国でバイデン氏が大統領に就任しました。「自国第一」を掲げ、地球温暖化対策に消極的なトランプ政権から脱炭素化を目指す新政権に代わりました。今、世界各国が真剣に取り組んでいる脱炭素化の背景には深刻化する地球温暖化

があります。脱炭素社会とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量「実質ゼロ」を目指すことです。未来の子供たちに何を残せるのか。バイデン大統領誕生に強く考えさせられました。

私自身は倉敷市議会選挙で始まりました。握手や集会をやめて「三蜜」を避けての選挙です。車から自転車へシフトチェンジ。ハチマキをしめて自転車部隊大活躍でした。

しかし大雨の日、目の中に入ってくる雨が痛く、全身びしょ濡れになりました。根性。根性。

春、子どもたちの卒業式と入学式。コロナ禍で迎える2回目の春となります。この1年間、学校のイベントが縮小や中止され、日ごろの成果を披露できなかったのではないかと。自分の子ども時代と今の子どもたちの「当たり前」が大きく違っていることに戸惑いが隠せませう。子どもたちの疲れはどうだろうか。

夏、やはり東京五輪・パラリンピック。

1年延期になったの、7月に開催。ただ足元では国内外で感染拡大に歯止めがかからず、感染対策が大きな課題になりました。

五輪史上初めて、無観客での開催。感動、選手たちの真摯な瞳。一番、心に残る五輪でした。感動をありがとうございます。

「**コロナを学び正しく恐れる**」

岡山県では「岡山県緊急事態宣言」が8月27日から9月12日「まん延防止等重点措置」が9月13日から30日。底の見えない恐怖の中でも、ワクチン接種が進み、感染者は減り始め、ようやく新たな段階に入った気がします。そのことは私たちが日ごろから行っているマスクをし、蜜を避け、手洗いなどを行う感染対策が有益であると証明されたのではないかと。まず距離を取る。少なくとも1メートル。そしてマスク着用。感染を抑止しつつ、日常生活をどう取り戻していけるだろうか。

市政では「アフターコロナ」を見据えた支援も再開されています。決して気を緩めるのではなく、今できることを着々と準備し、「第6波」に備えたいと考えています。



▶ コロナ禍での議会風景
半数はモニターでの出席

「真備の復興防災公園」

公園は小田川と高馬川が交わる堤防沿いに整備され、平常時には憩いの場として、災害時に

は救急活動の拠点となります。11月21日 設計を手がける建築家の隈研吾氏が真備保健福祉会館で会見し、「希望の丘にし」とコンセプトを発表。



▶ 平常時と災害時の機能転換が可能な復興シンボルとなる希望の丘



▶ 真備のポテンシャルを活かした市民を迎える竹のゲート

イメージ画をその時、初めて拝見したのですが、かついいのです。

その迫力は真備の大きな力になるはず。これが氏が言ったデザインの力か。

「新たな脅威なのか」

中心部に屋根のある巨大ゲートを設け、一時避難所と防災倉庫を兼ね、周辺には芝生広場や遊具広場、催しに用いる交流スペースも配置される。また災害時に車での避難も可能だという。まさしく「希望の丘」完成は二〇二三年度。

これを書いているのが11月ですが、コロナウイルスの新たな脅威として世界に猛威をふるう「オミクロン株」の流入阻止をはかる報道が中心となりつつあります。「第6波」なのか。オミクロン株は感染力が強いと聞く。不安の中、はっきりしたことは分からないが慎重に判断しなければならぬ。そしてわたしたちは、ワクチン接種などをしっかり受け、万が一を準備しなければならぬと考えます。

最後になりましたが、過酷な環境に身を置き、医療に携わっている方々や、深夜まで職務に専念されている保健所の方々から感謝申し上げます。一日も早い終息を祈ります。